

〈要旨〉

2000年メキシコ連邦選挙における 分割投票の分析

高橋 百合子

本稿は2000年メキシコ連邦選挙における分割投票 (Split-Ticket Voting) の要因を分析する試みである。分割投票とは、大統領と連邦議会等の複数の公職選挙が同時に行われる際、有権者がそれぞれのポストに対して異なる政党の候補者に投票する現象を指す。同選挙において、メキシコ史上初めて国政レベルで分割投票現象が見られた。すなわち、多数の有権者が大統領選挙において国民行動党 (PAN) のピセンテ・フォックス候補に投票することによって、長年続いた制度的革命党からの政権交代を実現した。一方、その投票者の一部は、連邦議会選挙においてはフォックス率いる「変化のための同盟 (Alianza por Cambio)」候補に投票しなかったため、フォックス政権は議会で圧倒的多数派を形成するに至らなかった。何故、そうした「変革」を求める有権者は、議会選挙でも「変化のための同盟」候補に投票することによって、行政府のみならず立法府においても変革勢力拡大を目指さなかったのだろうか。

こうした分割投票は、比較的教育レベルが高く、長年続いた PRI 体制からの「変革」を望む民主革命党 (PRD) 支持者の一部が、PRD を支持しつつも大統領選挙で PRD のクアウテモック・カルデナス候補が勝つ見込みのないことを確信し、「変革」実現を目指して意味ある一票を投じるためにフォックス候補に投票したことに起因する。すなわち、世論調査やマス・メディアの投票行動に及ぼす影響が著しく高まった同選挙では、情

報処理能力の高い一部の PRD 支持者が選好のコーディネーション (Electoral Coordination) を行い、大統領選挙において戦略的投票 (Strategic Voting) を行った結果、分割投票現象が生じたのであった。